

はしがき

本冊子は、平成20年度「地域と共に歩む博物館育成事業」アジア・太平洋地域の博物館連携にかかる総合調査として、平成20年12月26日～平成21年3月10日を実施機関として行われた調査研究の報告書である。

本調査研究は、次のことを目的として行われた。国際化の進展に伴い、博物館マネジメント担当者や学芸員等の人材育成、資料(標本)や展示物相互貸与、自然史標本情報の流通など国を超えた博物館連携の促進が課題となっている。我が国は国際博物館会議 ICOM を通じて、国際連携を行っているが、欧米との交流が中心であり、アジア太平洋地域組織である ICOM-ASPAC (アジア・太平洋地域)との交流・連携が弱く、この課題に対して国を超えた連携ができない状況である。このことについて、ICOM-ASPAC の現委員長からも、この課題の解決のために ICOM-ASPAC 会議の日本開催が強く求められている。このような情勢の中で、アジア・太平洋地域の博物館連携推進のための方策として国際会議を開催する場合、上記の課題の解決に資するテーマとは何かを調査分析し、そのテーマを各国の参加者と共有し、議論を深化させるための効率的な運営手段について検討するための調査を行う。

本調査研究の内容及は、①アジア・太平洋地域を中心とした国際会議を開催する際のテーマ設定等と、②国際会議の開催に関する具体的な問題点の抽出の検討からなる。

本調査研究の実施方法は次の通りである。まず、本調査研究のために、ICOM 日本委員会の役員を中心に調査研究委員会を設置した。この調査研究委員会の下に、作業部会(ワーキンググループ)を置いた。事務局は、この分野において優れた情報収集能力と速やかな分析能力を有する国立科学博物館の協力の下に、財団法人日本博物館協会に置いた。この体制により、アジア太平洋地域において博物館活動が活発な中国・韓国・オーストラリアの博物館関係者との意見交換、ICOM 及び ICOM-ASPAC の国際機関の関係者との会議の方向性についての意見交換を行った。短期間で効果的に調査研究を実施するために、作業部会の小部会を頻繁に開催することにより「2009 ICOM-ASPAC 日本会議」の概要及び調査研究報告書の取りまとめを行った。

これまで受け身であった我が国の博物館における国際連携について、積極的に活動を進めるためには、ICOM 等を通じて、世界の博物館関係者との交流が必要であることは論を待たない。特に、これまで欧米偏重であった日本の博物館関係者の眼を、連携が弱かった近隣のアジア太平洋地域の博物館に向けていくことは重要である。博物館活動が活発な北東アジアの日本、中国、韓国並びにオーストラリアの博物館関係者との連携・協力を深めながら、アジア太平洋地域各国の博物館関係者に対して、今後、積極的に情報発信をしていくことが求められる。そのためには、ICOM 日本国内委員会の強いリーダーシップの下に、ICOM のアジア・太平洋地域組織である ICOM-ASPAC 会議を日本国において早急に開催して、当該地域の博物館関係者と意見交換や情報交流を行うことにより、アジア・太平洋地域の博物館の状況を把握し、当該地域の博物館相互連携・交流を強めて、発展して行くことが求められている。

末筆となったが、貴重な調査研究の機会をいただいた文部科学省に謝意を表すると共に、ご協力をいただいた各位に厚く謝意を表する。